

古文書を読む会学習記録

作成日 平成26年12月14日

開催日	平成26年12月11日	時 間	9:45～11:45
場 所	金沢地区センター	出席人数	14名
講 師	真田雅行氏	作成者	高杉 和枝
テーマ	第1学習 布川家文書① 天保七年と八年の御用留(主要三項目)		
概 要	<p>1. 穢多(えた)・非人(ひにん)の博奕(ばくち)に関する注意喚起文書</p> <p>2. 白山堂(道)で行き倒れの死人発生とその対応</p> <p>3. 三浦半島の松輪で異国船が打ち上げられ、浦賀に連行されこと</p> <p>1. 穢多共が紋紙(紋紙を使った博奕)を持参して、村々で博奕を行い金壺分式分も取られた者がいると聞いた。穢多の頭方へ百姓と交わるべからずと厳しく申し付ける。これはご法度のはずなので取締り役人の出番だが、取調の節、落度だとして役人が咎められては困る。役人の病死でこの事がのびのびになっているが、自分も老衰で村廻りも行き届かないので、以上を文書にして廻村する。</p> <p>天保七年(1836)申二月八日</p> <p>2. 天保七年申年十二月二十四日 宿村の白山道地藏堂前で非人体の男一人が行倒れ果てていた。見分したところ年齢31歳か32歳位で木綿の綿入れを着ていて、麦・鏝(びた)9文・古紙・煙草入れなどを持っていた。</p> <p>木綿袋に「越後国蒲原郡白根地藏同行二人」と認められていた。近領に問い合わせるも心当たりが無かった。6か月見合わせして尋ね来る者が無ければ、土葬すべきかお伺いしたい。役人より雑物は寺へ預け死骸は申出の通りとするとの仰せあり。</p> <p>3. 天保八年(1837)六月二十八日、三浦郡松輪浦へ異国船が打ち上げられ浦賀に連れていかれた。浦賀奉行様と松平大和守様より、三浦郡の村々は警戒し、船は全て役船として供出する等何時海防の役を求められても良いように心得ておくようにとのお達しがあった。自分達の組合にも何時命令が来るかも知れないから心得ておくように。当組合寄場(町屋村)の役人より、期限を延ばさず人馬を差出すようにと言われている。この廻状に印と刻付けをして最後の村から返すように。</p> <p>*幕府は文政八年(1825)に外国船打払令を出したが、アヘン戦争で清国がイギリスに敗れたことを知りあわて、天保十三年(1842)薪水給与令に改め穏便な措置に切り替えた。本件はその17年の間の出来事で、幕府が外国船の警戒に躍起になっていた時代背景を示す文書である。</p>		
次回予定	平成26年12月25日(木)10:00～12:00 於: 金沢公会堂 第2学習 江戸時代の絵島生島事件⑫(処分と江戸時代の刑罰について)		